

初任者教諭育成に関する指導資料

東京都教職員研修センター

あいさつ

東京都教職員研修センター所長
近 藤 精 一

今日、各学校は、児童・生徒の学力の向上、規範意識・自立心の育成、いじめ問題等、様々な教育課題に対応しており、学校教育に対する保護者・都民の期待は一層高まっています。また、こうした中で、各教員の資質・能力の向上も一層求められており、とりわけ、教員の大量退職・大量採用期を迎えて、初任者教諭の育成は緊急の課題となっています。

東京都教育委員会及び各区市町村教育委員会においては、公立学校の初任者教諭の資質の向上を目指し、教員としての使命感、幅広い知見、実践的指導力等を育成するための初任者研修を実施しています。初任者研修では、教育センター等で校外における研修を年間15日間程度行うとともに、各学校では、指導教員を中心とした指導・助言による校内における研修を、週10時間以上・年間300時間以上実施しています。こうした初任者教諭の育成においては、指導教員の役割は極めて重要であり、指導責任者である副校長等は、初任者教諭に対する指導教員の指導・助言の状況を把握しながら校内の指導組織を取りまとめ、指導計画全体を推進することが求められます。

そこで、東京都教職員研修センターでは、今年度の教育課題研究の一環として「初任者教諭の育成に関する研究」を実施し、初任者教諭の教員としての意欲と資質・能力の向上を図るための育成の在り方を探ることとしました。

研究にあたっては、教員経験2年目を迎えた教諭から、一年間を振り返って感じた自己の課題を聞き取り、初任者教諭をめぐる課題の観点を7点に整理しました。さらに、初任者教諭の職務遂行における意識調査を通して、初任者教諭育成上の課題を把握するとともに、その結果を踏まえて、各学校において指導責任者や指導教員等が初任者教諭の育成を組織的・計画的に行うことができるよう、本指導資料を作成しました。

各学校や教育委員会においては、本指導資料に掲載した内容を初任者教諭の育成に役立て、教育活動の充実に活用していただきたいと思います。

平成19年3月

目次

あいさつ

初任者教諭育成の4ステップと指導資料の活用例	1
資料1 初任者教諭をめぐる課題の観点と解決に向けた基本的な考え方	2
資料2 初任者教諭及び指導教員の意識調査の結果と分析	4
資料3 初任者教諭育成カレンダー「小学校」	18
「中学校・高等学校」	19
「特別支援学校」	20
「初任者教諭の育成に関する研究」 アンケート 質問項目	21

参考資料

<資料2におけるアンケートの結果について>

- (1) 資料2の作成にあたっては、都内公立学校初任者教諭1,095名と指導教員992名及び東京教師道場部員297名を対象に実施した『初任者教諭の育成に関する研究』アンケートの結果をまとめて掲載した。調査の実施時期や内容及び結果の詳細については、「参考資料」に記載している東京都教職員研修センターホームページを参照のこと。
- (2) 資料2に示すア・イ・エ・オ・キの課題の観点については、初任者教諭の調査結果と東京教師道場部員の調査結果についてt検定を行った。その結果が5%水準で初任者教諭の結果が有意に異なった場合には、図中に以下の記号を付して示した。
 - ：初任者教諭の結果が有意に高く、東京教師道場部員に比べて、初任者教諭の方が困難や課題と感じている程度が大きいもの
 - ：初任者教諭の結果が有意に低く、東京教師道場部員に比べて、初任者教諭の方が困難や課題と感じている程度が小さいもの

初任者教諭育成の4ステップと指導資料の活用例

初任者教諭の育成にあたっては、指導責任者が校内の指導組織を取りまとめるとともに、指導教員を中心とした組織的・計画的な取組みを進めることが大切である。指導教員は、初任者教諭の希望や意志、悩み等を把握し、育成目標を明確にして指導を行うとともに、学校全体が初任者教諭育成の重要性を理解し、日ごろから多くの教員が指導・助言にかかわる中で、初任者教諭を支える雰囲気をつくっていくことが大切である。初任者教諭を指導する際には、下記のステップを参考に本指導資料を活用することが効果的である。

ステップ1 役割の理解

- 1-1 指導教員としての役割を理解する
- ・学校にとっての初任者教諭育成の意味を考えます。
 - ・校長及び指導責任者は指導教員の役割を理解させます。

校長の学校経営方針・計画や人材育成計画を基に、学校にとっての初任者教諭育成の意義や指導教員としての役割を明確にします。

ステップ2 指導の計画

- 2-1 初任者教諭の特徴や課題を把握する
- ・初任者教諭の職務に対する課題を考えます。
 - ・初任者教諭の得意なことや良さを見付けます。
 - ・初任者教諭育成上の課題をまとめます。

- 2-2 初任者教諭の育成目標を設定し、指導計画を立てる
- ・どの課題を、いつまでに、どの程度(資質・能力)まで高められるかを考え、指導計画を立てます。
 - ・初任者教諭の特徴や課題を踏まえて育成目標を考えます。

- 2-3 目標・計画の妥当性をチェックする
- ・達成可能な目標であるかを検討します。
 - ・指導が可能な計画、内容であるかを検討します。

- 2-4 初任者教諭に目指す教師像や計画を説明する
- ・初任者教諭育成の学校教育にとっての重要性や意味を説明します。
 - ・初任者教諭自身にとっての研修の意味を説明します。

- 2-5 全教員の共通理解を図る
- ・全教員に対して、初任者教諭の指導の計画と内容を具体的に説明します。
 - ・初任者教諭の指導に必要な準備や体制等を説明します。

- 1 校長・指導責任者と共に、初任者教諭のキャリアプランや自己申告書、児童・生徒への指導場面の観察等を基に、初任者教諭の希望や意志、悩み等の課題を把握します。
- 2 資料1を参考に「育てたい資質・能力」を基に「課題の観点」ごとに初任者教諭の育成目標を設定します。「具体的課題」や「解決に向けた基本的な考え方」を基に、指導体制や指導の方向性を明確にします。
- 3 資料2を参考に「調査の結果」や「各校種における取組み事例」等を参考に、校内における具体的な指導体制や指導方法を検討します。
- 4 資料3を参考に指導責任者と共に初任者教諭育成の年間の指導計画を作成します。
- 5 初任者教諭に研修の計画や内容を説明するとともに、全教員に指導の計画と内容及び指導体制について説明し、共通理解を図ります。

ステップ3 指導の実施

示す・見る(個々に行う)

- 3-1 指導の方法等を説明する
- ・指導のポイントや配慮事項等を説明します。
 - ・指導の全体像を理解させます。

- 3-2 授業や指導場面を見せ、手本を示す
- ・事前に、初任者教諭に観察の視点を示します。

- 3-3 授業指導等の様子を観察する
- ・良い点、改善する点を明確にします。

改善

- 3-4・3-3' 授業指導等への指導・助言をする
- ・授業指導等を振り返り、初任者教諭に自己評価をさせます。
 - ・良かった点を具体的に伝えます。
 - ・うまくいかなかった点とその原因を共に検討します。
 - ・改善が必要な点を具体的に示します。

把握する・共有する(学校全体で行う)

- 3-1' 全教員で支える
- ・初任者教諭の希望や意志、悩み等の課題を把握します。
 - ・全教員が初任者教諭の状況を共通理解できるようにします。
 - ・初任者教諭に日ごろから声をかけ、話を聞くようにします。
 - ・初任者教諭を支える雰囲気をつくります。
 - ・日ごろから子供の様子や指導等について情報交換するようにします。

情報交換の場が設定できない場合は、初任者教諭の記録日誌を回覧する等の工夫により、情報の共有化と適時、適切な指導・助言が可能になります。

- 3-2' 校長・指導責任者に報告する
- ・初任者教諭指導上の課題を報告します。
 - ・努力し、成長している点を具体的に伝えます。
 - ・今後の指導に対して、指導・助言を受けます。

- 1 指導教員の行う授業を初任者教諭に見せたり、初任者教諭の授業指導を観察したりしながら、具体的に指導を行います。
- 2 全教員が意図的に初任者教諭に声をかけ、困っていることや分からないこと等に対して助言をする等、初任者教諭を支えます。
- 3 初任者教諭の努力した点や進歩した点等を指導責任者に報告し、今後の指導の計画や内容について、指導・助言を受けます。
- 4 管理職が初任者教諭に対して、直接指導・助言を行ったり、励ましたりします。

記録日誌(例)

氏名()			
平成	年	月	日
日	項目	内容	コメント

回覧
指導教員 主幹 主任 …

ステップ4 指導の評価

- 4-1 目標や指導等を振り返り、評価をする
- ・育成目標や初任者教諭への指導に対する評価を考えます。
 - ・初任者教諭の努力した点や進歩した点を評価します。

- 4-2 改善点を共同で検討する
- ・初任者教諭の努力した点や成長した点を認めたり、励ましたりします。
 - ・初任者教諭の次年度に向けての課題・改善事項を整理し、助言します。

2年次教員としての課題を明らかにし
指導等の改善・充実を図る

- 1 資料1や資料2を活用し、初任者教諭の資質・能力の高まりを評価するとともに、指導教員は設定した目標や指導の計画・内容を振り返ります。
- 2 初任者教諭と共に1年間を振り返り、成長を認め励ましたりしながら、次年度への課題や改善事項を明確にします。

資料1 初任者教諭をめぐる課題の観点と解決に向けた基本的な考え方

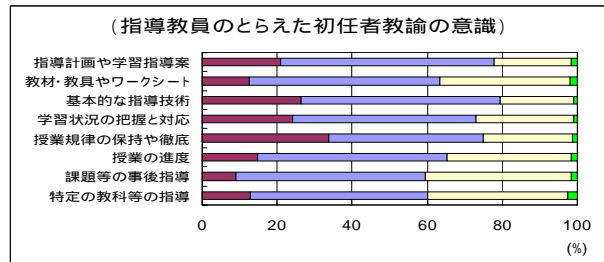
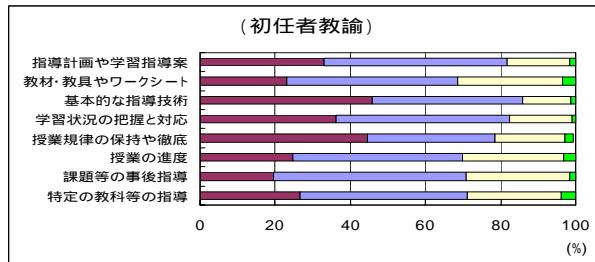
課題の観点	育てたい資質・能力	具体的課題	解決に向けた基本的な考え方
ア 授業について 4・5ページ参照	授業の実践的な技術を習得し、教材研究の方法を理解することができる。 授業における児童・生徒理解を深め、授業診断・記録分析を通して、指導を改善することができる。	基本的な指導技術 指導計画や学習指導案 学習状況の把握と対応 授業規律の保持や徹底	・教科の特性に応じて、指導教諭とのチームティーチングによる指導を行い、指導法の工夫を学ぶ機会とするとともに、授業規律の保持や徹底を、授業実践を通して学ぶことができるようにしている。 ・週時程内や放課後等に校内での研修として指導時間を確保し、授業規律にかかわる指導や学習指導計画の作成等について具体的に指導している。 ・児童・生徒の個別指導計画の作成や個に応じた教科指導の進め方等について指導している。
イ 学級経営について 6・7ページ参照	学級の実態を把握し、望ましい学級経営を行うことができる。 一人一人に寄り添い、児童・生徒に対して温かい指導ができる。	学級集団の掌握や具体的な指導の仕方 個々の児童・生徒理解や指導 年度当初の学級づくり 学校行事での指導	・年間の学校・学年行事の流れに沿って、学級への指導の仕方を具体的に指導している。 ・初任者教諭が担任ではない場合も、次年度から担任をもつ意識で学年の複数の学級での活動や指導を参観できるように配慮している。 ・児童・生徒指導及び理解にかかわる内容については、その都度、適切な事例を交えて、人権に配慮して指導している。
ウ 他の教員との連携について 8・9ページ参照	自己の課題解決に向けて、他の教員等などのように相談したらよいかを理解し、自分から積極的に指導・助言を求めることができる。 学校組織の一員として協働していく重要性を理解し、協調して職務に専念することができる。	指導責任者からの指導・助言 指導教員からの指導・助言 同僚の教員からの指導・助言 その他の教員とのかわり	・初任者教諭の進歩した点や努力した点等を具体的に指摘し、成功経験を積み重ねることを通して自信をもたせている。 ・教育活動の様々な場面で、「自分だけならどうしようか」について尋ねながら、具体的に対処できるよう指導している。 ・指導教員は、初任者教諭が児童・生徒の成長を実感できるように、具体的場面をとらえて声をかけを行っている。 ・初任者教諭が悩んでいる様子があれば、相談ののり、指導責任者に報告している。
エ 保護者・地域との連携について 10・11ページ参照	保護者・地域の学校教育への期待等を把握し、信頼関係を築くことができる。 保護者に対して児童・生徒の成長の様子を、正確に伝えることができる。	保護者会や個人面談等の計画・実施 保護者への連絡や苦情への対応	・学級通信や行事を、保護者・地域に向けた情報発信の機会と認識するよう指導している。 ・指導教員の学級の保護者会に初任者教諭が出席して、記録を取るなどを通して、保護者会運営のポイントが学べるようにしている。 ・個別指導計画作成の際に、保護者の願いを生かすことの大切さを理解させることを重点として、指導している。
オ 効率的な校務処理等について 12・13ページ参照	校務分掌の仕組みや校内諸規定の意義を理解し、自校の実情を確認して対応できる。 各種文書等の作成・整理・保管を的確に行い、学校事務について適切に処理できる。 効率的な校務処理に必要な情報処理の能力と技能を身に付けている。	テストの採点や通知票等の成績処理 指導要録等の諸帳簿の作成・整理 研修前・後の課題作成 研修報告書の作成提出 部活動や夏休みの水泳指導	・センター研修の事前・事後の課題や報告書等の作成の仕方についても校内における研修の中で具体的に指導している。 ・初任者教諭が副担任の場合、当該学年の指導要録の作成や通知票の作成にかかわらせ、校務処理を具体的に学ばせている。 ・公簿、通知票等の作成については、指導教員から指導するとともに、校長・副校長・主幹等から作成上の配慮点について具体的に指導している。
カ 課題の解決及び自己の向上について 14・15ページ参照	主体的に研修・研究に取組み、日常の教育活動の改善・充実に生かすことができる。 自らの識見や指導力を高めるために、体験研修等へ積極的に参加することができる。	校内授業研究 情報交換 授業以外の校内研修	・授業研究の際には、「授業力診断シート」を活用して自己評価を行い、課題の明確化を図っている。 ・「初任者教諭の育成に関する研究」のアンケート等を活用して、初任者教諭育成上の課題を定期的に把握するようにしている。 ・初任者研修の手引きやテキストを活用し、障害についての基礎的な理解を図ることの大切さを繰り返し指導している。
キ 教師としての在り方等について 16・17ページ参照	公教育の概念や教育課題・施策等について理解を深める。 服務事項を正しく理解し、基礎的な職能と適切な行動規範を身に付ける。 社会人としての幅広い知識や教養、社会的常識を身に付け、自己の行動に適切に生かす。	理想と現実の違い 自己の健康管理 服務規律や倫理 幅広い知識や教養 私的な時間の確保	・指導教員自らが理想としている教師像を一例として、初任者教諭の自覚を高めている。 ・初任者教諭の課題や将来の希望を生かすような研修の機会を紹介しながら、日ごろからきめ細かく相談に応じている。 ・社会人として適切な接遇の仕方や礼儀・作法等を具体的な場面を通して指導している。 ・国際社会に生きる日本人としてのふさわしい資質・能力を高めることや外国語を運用する技能、情報を適切に処理する技能等の幅広い知識や教養を身に付けることの大切さを指導している。

資料2 初任者教諭及び指導教員の意識調査の結果と分析

ア 授業について

■ とても感じている ■ 少し感じている ■ あまり感じていない ■ まったく感じていない

《小学校》

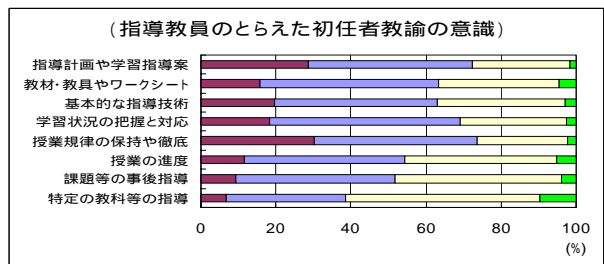
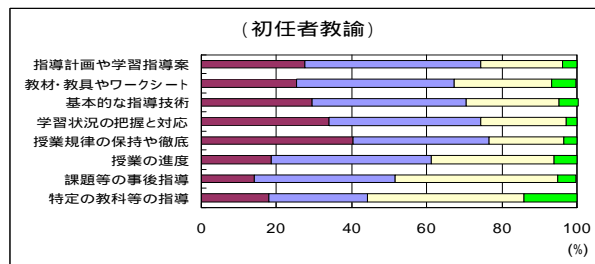


小学校の初任者教諭では、授業における「基本的な指導技術」「指導計画や学習指導案」「学習状況の把握と対応」等について困難や課題を感じている者が多い。特に、「基本的な指導技術」及び「授業規律の保持や徹底」に関する困難や課題は、40%を超える初任者教諭が「とても感じている」としている。

また、指導教員の多くが、こうした初任者教諭が感じた授業に関する困難や課題を把握しているが、「基本的な指導技術」について困難や課題を「とても感じている」ととらえている指導教員は約25%となっているなど、初任者教諭と指導教員との認識の違いが見られる。

指導教員は、初任者教諭の授業力を高めるために、実践的、具体的に指導・助言を行うことが大切である。

《中学校・高等学校》

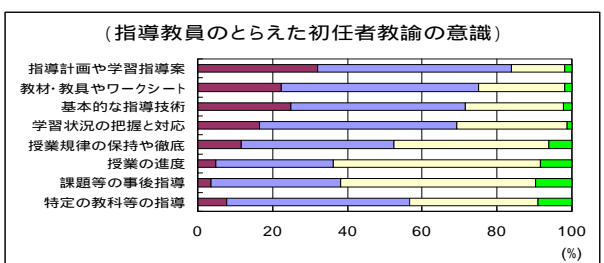
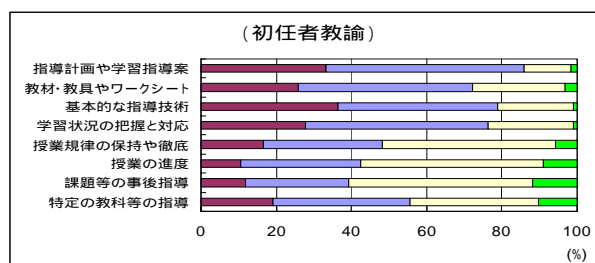


中学校・高等学校の初任者教諭では、授業における「授業規律の保持や徹底」「学習状況の把握と対応」「指導計画や学習指導案」等について困難や課題を感じている者が多い。特に、「授業規律の保持や徹底」に関する困難や課題は、約40%の初任者教諭が「とても感じている」としている。

また、指導教員の多くが、こうした初任者教諭が感じた授業に関する困難や課題を把握しているが、「学習状況の把握と対応」に関する困難や課題を「とても感じている」ととらえている者は20%未満となっているなど、初任者教諭と指導教員との認識の違いが見られる。

指導教員は、初任者教諭の授業力を高めるために、実践的、具体的に指導・助言を行うことが大切である。

《盲・ろう・養護学校》



盲・ろう・養護学校の初任者教諭では、授業における「指導計画や学習指導案」「基本的な指導技術」「学習状況の把握と対応」等について困難や課題を感じた者が多い。

また、指導教員の多くが、こうした初任者教諭が感じた授業に関する困難や課題を把握しているが、「特定の教科等の指導」「課題等の事後指導」に関する困難や課題を「とても感じている」ととらえている者は10%未満となっているなど、初任者教諭と指導教員との認識の違いが見られる。

指導教員は、学習指導計画の作成や授業における児童・生徒理解、障害の特性に応じた指導等について、初任者教諭の授業力を高めるために、実践的、具体的に指導・助言を行うことが大切である。

初任者教諭の育成のために、こんな取組みがあります

<初任者教諭育成上の課題>	<各校種における取組み事例>
<p>【小学校】</p> <p>指導教員は、 基礎的な指導技術や指導計画や学習指導案の作成、授業規律の徹底等の授業の実践的な技術を身に付けることができるよう、初任者教諭を具体的に指導することが大切です。</p>	<p>授業研究を繰り返し行うことを通して、基本的な指導技術や指導計画、学習指導案の書き方を指導している。 教科の特性に応じて、指導教員とのチームティーチングによる指導を行い、指導法の工夫を学ぶ機会とするとともに、授業規律の保持や徹底を、授業実践を通して学ぶことができるようにしている。 学年体制で教材研究を行うことにより、教材の共有化を図るとともに、児童の実態に即した教材研究の方法等について具体的に指導している。</p>
<p>指導責任者（副校長）は、 複数教科を担当する初任者教諭の実態や必要性に応じた校内研修を実施するなど、校内体制を整えることが大切です。</p>	<p>年度当初に初任者教諭等から研修内容に関する希望調査を行い、初任者教諭の課題に応じたOJTを行っている。 研究授業後、初任者教諭の行った授業の良い点、改善点を明らかにし、再度研究授業の機会を設定している。 専科担当及び養護教諭については、近隣の学校における授業等を参観させたり、他校から指導者の派遣を要請したりしている。</p>
<p>【中学校・高等学校】</p> <p>指導教員は、 指導計画や学習指導案の作成や生徒一人一人の学習状況の把握と対応、授業規律の保持や徹底の仕方等について、具体的に指導することが大切です。</p>	<p>週時程内や放課後等に校内での研修として指導時間を確保し、授業規律にかかわる指導や学習指導計画の作成等について具体的に指導している。 評価規準に基づいた教材研究を通じて、授業後、丁寧に振り返らせている。 週ごとの指導計画を初任者教諭とともに作成することを通じて、教科の指導法や教材研究の方法等について指導している。</p>
<p>指導責任者（副校長）は、 専門性を高めるための授業力向上を図り、授業改善につながる校内研修を組織的に取り組む体制を整えることが大切です。</p>	<p>文系・理系・実技系等の分科会を設定し、OJTを活用して、初任者教諭の専門性を高めるための授業研究を行う。 教育委員会による学校訪問を要請して、授業研究を行うなど、初任者教諭が指導主事から指導を受けられる機会を設定する。 近隣の学校での授業参観ができるように副校長が調整を行い、双方の学校の初任者教諭の研修を共有化している。</p>
<p>【特別支援学校】</p> <p>指導教員は、 学習指導計画の作成、授業における児童・生徒理解、障害の特性に応じた教科指導の基礎技術等について、具体的に指導することが大切です。</p>	<p>児童・生徒の個別指導計画の作成や個に応じた教科指導の進め方等について指導している。 授業研究で主幹や授業力リーダーによる指導を促し、複数の教員から多様な指導を受けることができるようにしている。 授業後の短い時間の中で授業を振り返り、教材研究の在り方や改善点等について指導している。</p>
<p>指導責任者（副校長）は、 授業研究の機会を設け、学習指導要領の内容の理解や個別指導計画に基づいた指導について校内研修を実施することが大切です。</p>	<p>初任者教諭が年間複数回の研究授業を行うことができるよう、校内研修計画を作成し、学部ごとに研究協議を行っている。 主幹や教科主任等とともに、学習指導要領を基にした学習指導案の作成について具体的に指導している。 個別指導計画に基づき、初任者教諭が担当する個別学習の時間を設定し、自覚と責任をもって指導にあたらせる。</p>

育てたい資質・能力

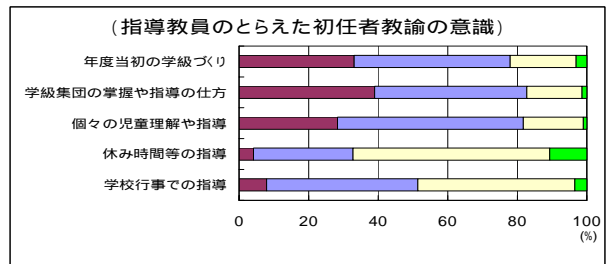
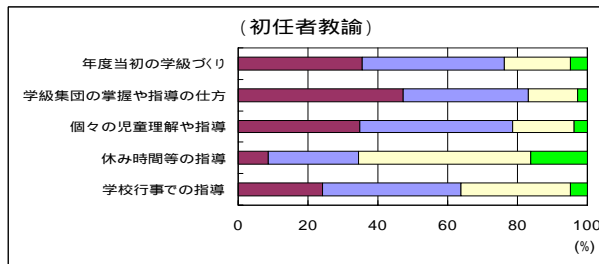
授業の実践的な技術を習得し、教材研究の方法を理解することができる。

授業における児童・生徒理解を深め、授業診断・記録分析を通して指導を改善することができる。

イ 学級経営について

《小学校》

■ とても感じている ■ 少し感じている ■ あまり感じていない ■ まったく感じていない



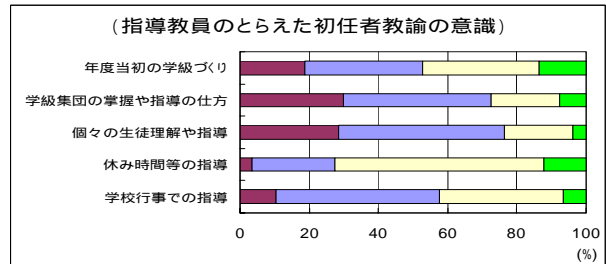
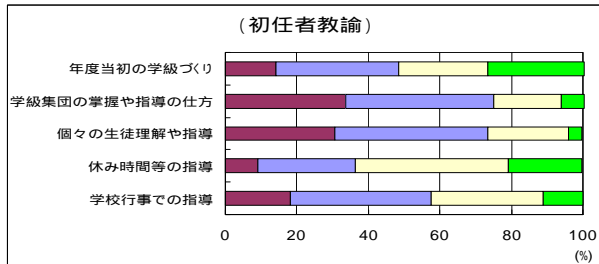
小学校の初任者教諭では、約80%の者が、学級経営について困難や課題を感じたこととして「学級集団の掌握や指導の仕方」「個々の児童理解や指導」を挙げている。また「年度当初の学級づくり」について困難を感じた者も同じ程度あった。

また、指導教員の多くは、こうした初任者教諭が感じた学級経営上の困難や課題をよく把握している。

しかし、「学校行事での指導」については、約25%の初任者教諭が困難や課題を「とても感じている」としているのに対し、初任者教諭が「学校行事での指導」に困難や課題を「とても感じている」ととらえている指導教員は10%未満となっており、初任者教諭と指導教員との認識に違いが見られる。

指導教員は、年間を通じて適切な時期に学級経営にかかわる基本的な事項について具体的に指導・助言することが大切である。

《中学校・高等学校》

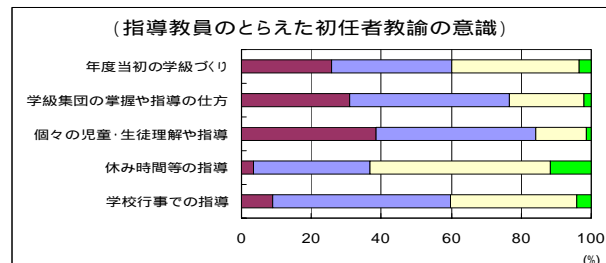
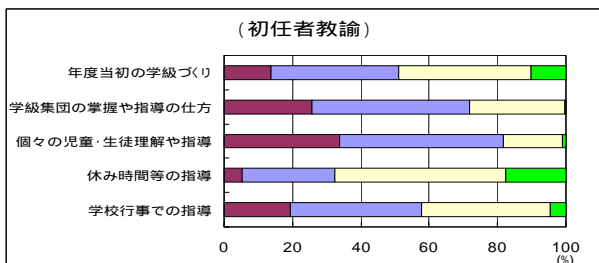


本調査における中学校・高等学校の初任者教諭のうち、学級担任をしている者は約13%であり、学級担任としての経験はまだない初任者教諭が多い。しかし、日常の指導を通じて、「学級集団の掌握や指導の仕方」「個々の生徒理解や指導」については、70%を超える者が困難や課題を感じていた。

また、指導教員の多くは、初任者教諭が「学級集団の掌握や指導の仕方」「個々の生徒理解や指導」等について困難や課題を感じていることをよく把握している。

指導教員は、今後、初任者教諭が学級担任となることを見通し、学級経営にかかわる基本的な事項について、他の学級の経営に副担任としてかかわらせることなどを通して具体的に指導・助言することが大切である。

《盲・ろう・養護学校》



盲・ろう・養護学校の初任者教諭では、80%を超える者が、学級経営上、困難や課題を感じていることとして「個々の児童・生徒理解や指導」を挙げている。また、「学級集団の掌握や指導の仕方」については、約75%の初任者教諭が困難や課題を感じていた。

指導教員の多くは、こうした初任者教諭が感じている学級経営上の困難や課題をよく把握している。

しかし、約20%の初任者教諭が「学校行事での指導」に困難や課題を「とても感じている」としているのに対し、初任者教諭が「学校行事での指導」に困難や課題を「とても感じている」ととらえている指導教員は10%未満となっており、初任者教諭と指導教員との認識に違いが見られる。

指導教員は、児童・生徒の理解や指導について情報を適切に提供しながら、学級経営についてきめ細かく指導・助言していくことが大切である。

初任者教諭の育成のために、こんな取組みがあります

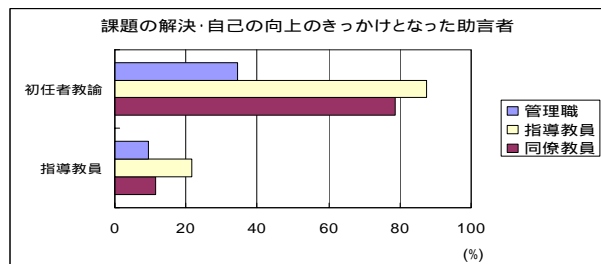
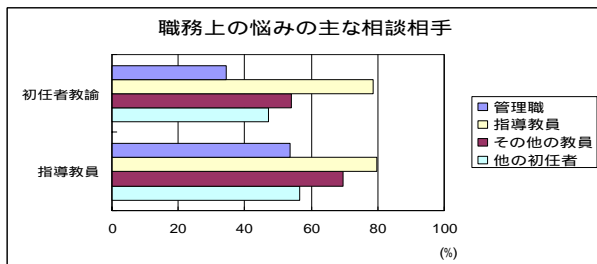
＜初任者教諭育成上の課題＞	＜各校種における取組み事例＞
<p>【小学校】 指導教員は、 初任者教諭に対して年度当初から、年間を通じて学級経営上の基本的な事柄について具体的に指導をすることが大切です。</p>	<p>初任者教諭と共に、教室の掲示物等の整備を行い、児童が学習しやすい教室環境の整備を図っている。 年間の学校・学年行事の流れに沿って、学級への指導の仕方を具体的に指導するようにしている。 学級経営計画の作成を初任者教諭と共に行い、児童に対する指導が適切であるかどうかを定期的を確認している。</p>
<p>指導責任者（副校長）は、 初任者教諭の実態に合わせた指導を行い、多くの教員が初任者教諭育成にかかわることが大切です。</p>	<p>校長・副校長が授業観察をきめ細かく行い、初任者教諭の学級経営について日ごろから助言を行っている。 校内OJT担当が校内研修計画を作成し、学級経営に関する研修を年間1回設定し、初任者教諭が他の学級の経営を学ぶことができるようにしている。 児童理解に関する校内研修を教育相談担当との連携で実施し、児童理解の視点を具体的に研修できるようにしている。 けんか、いじめ等の問題に対する児童指導の仕方を、他の教員によるロールプレイによって具体的に指導している。</p>
<p>【中学校・高等学校】 指導教員は、 初任者教諭に対して生徒とのかかわり方について具体的に実践を通して指導することが大切です。</p>	<p>初任者教諭が担任ではない場合も、次年度から担任をもつ意識で学年の複数の学級での活動や指導を参観できるように配慮している。 初任者教諭が指導教員の学級において、清掃指導・給食指導にかかわることができるようにしている。 褒める・叱る等の生徒指導を行った際に、指導の内容について即時に指導教員と確認している。</p>
<p>指導責任者（副校長）は、 初任者教諭が生徒とかわる場面をできるだけ多く設定することが大切です。</p>	<p>登校時や休み時間に複数の教員で生徒指導を行う機会を設定し、初任者教諭も含めた複数の教員で指導を行っている。 スクールカウンセラーと連携を図った生徒理解に関する研修会を実施している。 けんか、いじめ等の問題に対する生徒指導の仕方を、他の教員によるロールプレイングによって具体的に指導している。</p>
<p>【特別支援学校】 指導教員は、 児童・生徒指導について、初任者教諭との打合せをきめ細かく行うことが大切です。</p>	<p>児童・生徒指導及び理解にかかわる内容については、その都度、適切な事例を交えて、人権に配慮して指導している。 教室環境を整える時間などに、指導教員と初任者教諭の打合せの場面を設け、情報交換をしている。 障害についての理解を図る研修を定期的実施している。</p>
<p>指導責任者（副校長）は、 初任者教諭の担当する教室の様子をきめ細かく観察することが大切です。</p>	<p>けんか、いじめ等の問題に対する児童・生徒指導の仕方を、他の教員によるロールプレイングによって具体的に指導している。 指導教員が定期的に、校長・副校長に初任者教諭の学級経営の様子を報告する機会を設けている。</p>

育てたい資質・能力

学級の実態を把握し、望ましい学級経営を行うことができる。
一人一人に寄り添い、児童・生徒に対して温かい指導ができる。

ウ 他の教員との連携について

《小学校》

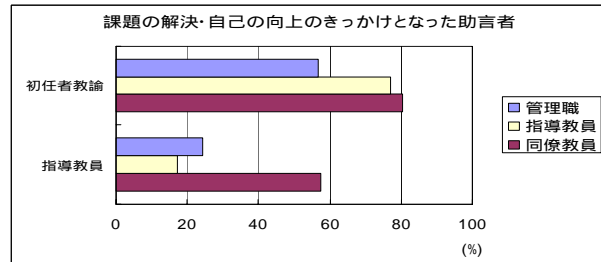
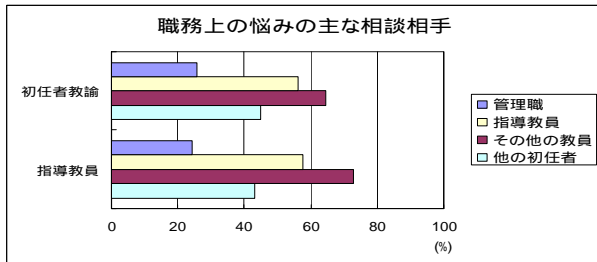


小学校の初任者教諭では、職務上の悩みが生じた場合に、「指導教員」に相談する者が最も多く、また、約90%近い初任者教諭は、そうした際の「指導教員」からの助言によって職務上の悩みや課題が解決できたり、自己の向上につながったりしたと感じている。

また、指導教員についても、初任者教諭が職務上何らかの悩み等を抱えた場合には指導教員である自分に相談するであろうと多くの者が考えており、指導教員の初任者教諭育成に対する自覚がうかがわれる。

なお、約80%の初任者教諭が、同僚の教員から「課題の解決」「自己の向上」のきっかけとなった助言が得られたと感じている。

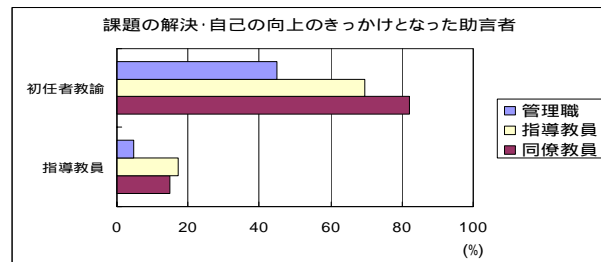
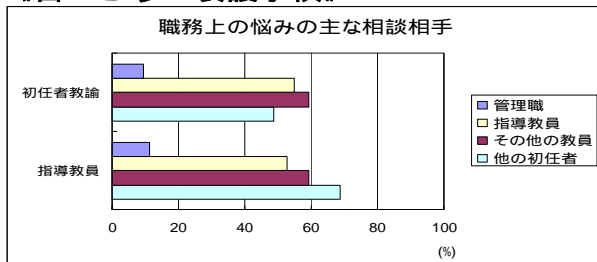
《中学校・高等学校》



中学校・高等学校の初任者教諭では、職務上の悩みが生じた場合に、「指導教員」だけでなく「その他の教員」にも広く相談する者が多かった。その結果、約80%の初任者教諭が「指導教員」「その他の教員」のいずれからも、職務上の悩みや課題の解決及び自己の向上につながる助言が得られたと感じている。

また、指導教員については、初任者教諭が職務上何らかの悩み等を抱えた場合には指導教員である自分に相談するよりも、「その他の教員」に相談するであろうと考えている者の方が多かった。これは、小学校に比べて、中学校・高等学校では、担当教科の指導や生活指導、部活動の指導等、様々な場面で多くの教員が初任者教諭とかかわることが多いことによるものと考えられる。

《盲・ろう・養護学校》



盲・ろう・養護学校の初任者教諭では、職務上の悩みが生じた場合に、「指導教員」だけでなく「その他の教員」にも広く相談する者が多かった。その結果、80%を超える初任者教諭は「その他の教員」から、また、約70%の初任者教諭が「指導教員」から、職務上の悩みや課題の解決及び自己の向上につながる助言が得られたと感じている。

指導教員については、初任者教諭が職務上何らかの悩み等を抱えた場合には「他の初任者教諭」に相談するであろうと考えている者が多い。これは、盲・ろう・養護学校では、初任者教諭の配置が複数あることが多く、指導教員が、初任者教諭同士の相談や情報交換が相互の向上に重要であるととらえている者が多いことによるものと考えられる。

初任者教諭の育成のために、こんな取組みがあります

< 初任者教諭育成上の課題 >	< 各校種における取組み事例 >
<p>【小学校】 指導教員は、 初任者教諭の話聞き、疑問や悩みを共に考えながら指導するとともに、他の教員からも積極的に指導を受けるよう助言することが大切です。</p>	<p>初任者教諭の進歩した点や努力した点等を具体的に指摘し、成功経験を積み重ねることを通して自信をもたせている。 他の教員の授業を参観した際等には、必ず報告やお礼を述べさせるなどのコミュニケーションを図ることを通して他の教員との良好な人間関係づくりができるようにしている。 初任者教諭が悩んでいる様子があれば、相談にのり、指導責任者に報告している。</p>
<p>指導責任者（副校長）は、 指導教員からの情報を基に、多くの教員が初任者教諭育成にかかわることができるようにすることが大切です。</p>	<p>初任者教諭の変容を週ごとに評価して知らせることを通して、指導教員を支援している。 初任者教諭の相談内容に応じて主幹や管理職が対応できるような体制を整えている。 初任者教諭の課題について、指導教員と共に研究を進め、得意分野を生かして育成にかかわらせる体制を整えている。</p>
<p>【中学校・高等学校】 指導教員は、 初任者教諭の課題をとらえ、指導するとともに、他の教員からも積極的に指導を受けるよう助言することが大切です。</p>	<p>教育活動の様々な場面で、「自分だったらどのようにするか」について尋ねながら、具体的に対処できるよう指導している。 課題によっては、初任者教諭を伴って、他の教員から具体的な助言を得るような機会を設定している。 初任者教諭に悩んでいる様子があれば、相談にのり、指導責任者に報告している。</p>
<p>指導責任者（副校長）は、 指導教員を十分に支援するとともに、日ごろから多くの教員の指導実践等を交流する機会を設定することが大切です。</p>	<p>校務分掌を指導教員と同じにするなどして、生徒とのかかわり方や仕事の進め方等を随時学ぶことができるようにしている。 時間割の調整を行うなどして、学校公開週間等において他の教員の授業を見ることができるようになっている。</p>
<p>【特別支援学校】 指導教員は、 初任者教諭の課題をとらえ、指導するとともに、他の教員からも積極的に指導を受けるよう助言することが大切です。</p>	<p>指導教員は、初任者教諭が児童・生徒の成長を実感できるように、具体的場面をとらえて声かけを行っている。 研究協議会で、よりよい指導や内容になるような発言を指導教員から行うよう心掛けている。 初任者教諭が悩んでいる様子があれば、相談にのり、指導責任者に報告している。</p>
<p>指導責任者（副校長）は、 指導教員を十分に支援するとともに、校内研修の機会を充実させ、日ごろから多くの教員の指導実践等を交流する機会を設定することが大切です。</p>	<p>東京教師道場関係者や主幹を指導教員として、指導・助言にあたることを基本とし、教員全員が初任者教諭の育成にあたるための役割分担を行っている。 初任者教諭にかかわる情報交換を行う場を設定している。 校内研修において、基礎的研修、専門的研修など内容に応じて分担し、多くの教員が指導にあたるようにしている。</p>

育てたい資質・能力

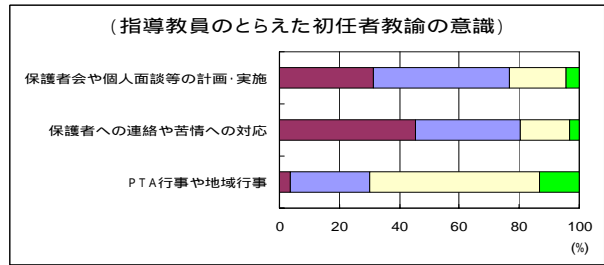
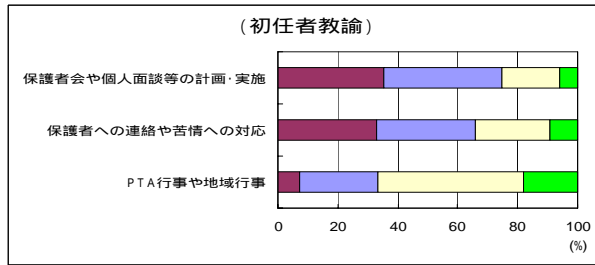
自己の課題解決に向けて、他の教員等にどのように相談したらよいかを理解し、自分から積極的に指導・助言を求めることができる。

学校組織の一員として協働していく重要性を理解し、協調して職務に専念することができる。

エ 保護者・地域との連携について

《小学校》

■ とても感じている ■ 少し感じている ■ あまり感じていない ■ まったく感じていない

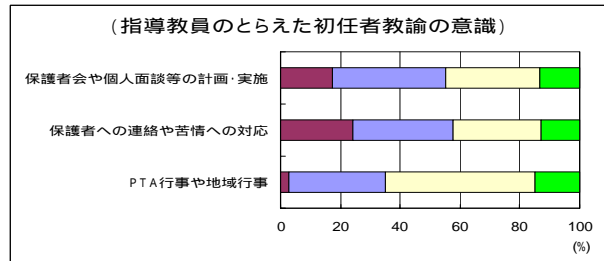
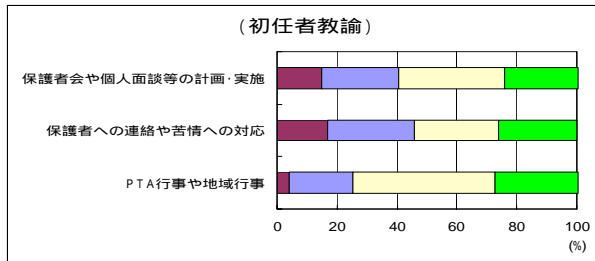


小学校の初任者教諭では、「保護者会や個人面談等の計画・実施」に困難や課題を感じていた者が70%を超えており、次に、「保護者への連絡や苦情への対応」を挙げた者が約65%あった。

指導教員は、初任者教諭は「保護者への連絡や苦情への対応」について困難や課題を感じているとらえている者が約80%あり、「保護者会や個人面談等の計画・実施」を課題として挙げる者よりも多かった。

指導教員は、初任者教諭が保護者会や個人面談等を行う際の計画の立て方や実施方法等を具体的に指導・助言していくことが大切である。

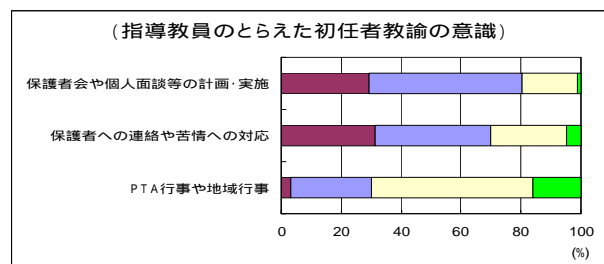
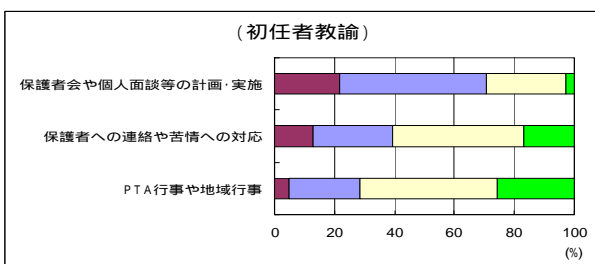
《中学校・高等学校》



中学校・高等学校の初任者教諭が感じる困難や課題として最も多かったのは「保護者への連絡や苦情への対応」であるが、その割合は約45%程度にとどまった。中学校・高等学校では、学級担任をしている初任者教諭の割合が、他校種と比べると少ないためにこうした結果となったと考えられる。

指導教員がとらえている保護者・地域との連携に関する初任者教諭の課題は、初任者教諭が感じているものと傾向はほぼ同じであった。次年度以降には、初任者教諭が学級担任として保護者・地域との連携を適切に図ることが求められることから、保護者会や個人面談の計画・実施の方法や保護者への適切な対応の方法を初年度から具体的に指導・助言していくことが大切である。

《盲・ろう・養護学校》



盲・ろう・養護学校の初任者教諭では、約70%の者が「保護者会や個人面談等の計画・実施」を保護者・地域との連携を図る上での困難や課題として挙げているが、「保護者への連絡や苦情への対応」を挙げた者は、40%に満たなかった。

指導教員は、初任者教諭は「保護者への連絡や苦情への対応」に困難や課題を感じているとらえている者が約70%あり、保護者・地域との連携を図る上での課題のとらえ方に初任者教諭と違いが見られる。

指導教員は、初任者教諭が適切に保護者との連携を図るために、初任者教諭と共に対応しながら、具体的な場面をとらえて指導・助言していくことが大切である。

初任者教諭の育成のために、こんな取組みがあります

< 初任者教諭育成上の課題 >	< 各校種における取組み事例 >
<p>【小学校】 指導教員は、 保護者会や個人面談等の計画や実施の方法等は、学校・学年で体制を整え、初任者教諭と共に検討していくことが大切です。</p>	<p>保護者会の内容を学年で検討し、合同で実施する部分と各学級で実施する部分を組み合わせるようになっている。 学級通信や学校行事を、保護者・地域に向けた情報発信の機会と認識するよう指導している。 保護者との連携を意識した学級経営について、学級経営計画作成の段階や保護者会の際に初任者教諭と確認している。 保護者会等の前には、資料を学年で作成し、考えられる質問等を想定し、対応の仕方をあらかじめ検討するようになっている。</p>
<p>指導責任者（副校長）は、 保護者との連携についての方針を、学校として示すとともに、適切な対応ができるような体制を整えることが大切です。</p>	<p>年間を通じて、初任者教諭を温かく見守ってほしいと校長・副校長が保護者に伝えている。 保護者との対応が必要な場合には、校長・副校長・学年主任等と共に、複数で対応する体制を整えている。 保護者からの苦情対応について、教員間でロールプレイングを通して研修する機会を設定する。</p>
<p>【中学校・高等学校】 指導教員は、 初任者教諭が学級担任として保護者や地域との連携について具体的に学ぶことができるように工夫することが大切です。</p>	<p>指導教員の学級の保護者会の記録を初任者教諭が取ることを通して、保護者会運営のポイントが学べるようになっている。 保護者会等の前には、資料を学年で作成し、考えられる質問等を想定し、対応の仕方をあらかじめ検討するようになっている。 職場体験活動や教科「奉仕」などの教育活動の準備や運営の際に、保護者や地域との連携のポイントを指導している。</p>
<p>指導責任者（副校長）は、 地域に開かれた教育活動を設定するとともに、初任者教諭が地域とかかわる機会を多く取り入れていくことが大切です。</p>	<p>初任者教諭が地域行事等に参加する機会を多く設定し、初任者教諭が地域理解を深めることができるようになっている。 初任者教諭が、職場体験活動や教科「奉仕」における地域での活動の準備にかかわらせ、地域と連携を図る機会としている。 保護者からの苦情対応について、教員間でロールプレイングを通して研修する機会を設定する。</p>
<p>【特別支援学校】 指導教員は、 初任者教諭に個別指導計画の活用を図りながら、保護者との連携を具体的に図ることができるよう、指導することが大切です。</p>	<p>個別指導計画作成の際に、保護者の願いを生かすことの大切さを理解させることを重点として、指導している。 土曜日に設定している課外講座に、指導教員をはじめ複数の教員と共に参加し保護者・地域との連携を図っている。 保護者会の際には複数の教員で進行し、対応については機会があるごとに指導している。 保護者会等の前には、資料を学年で作成し、考えられる質問等を想定し、対応の仕方をあらかじめ検討している。</p>
<p>指導責任者（副校長）は、 初任者教諭に対して、学校経営方針を踏まえて、保護者との連携について指導していくことが大切です。</p>	<p>学校経営方針に保護者・地域との連携を重点として位置付け、保護者との連携を図るよう指導している。 教員全員が活用することができる、電話対応等をはじめとする保護者との連携マニュアルを作成している。 保護者からの苦情対応について、教員間でロールプレイングを通して研修する機会を設定する。</p>

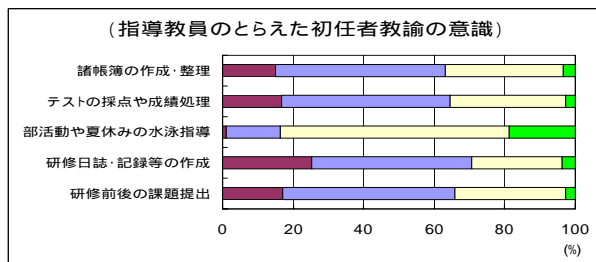
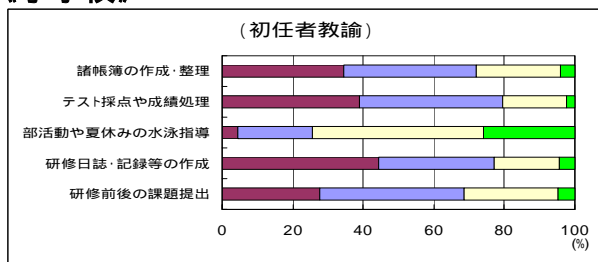
育てたい資質・能力

保護者・地域の学校教育への期待等を把握し、信頼関係を築くことができる。
 保護者に対して児童・生徒の成長の様子を、正確に伝えることができる。

オ 効率的な校務処理等について

■ とても感じている
 ■ 少し感じている
 ■ あまり感じていない
 ■ まったく感じていない

《小学校》

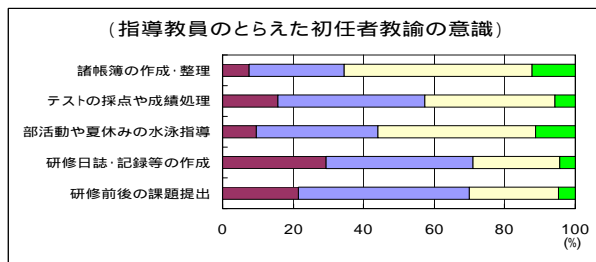
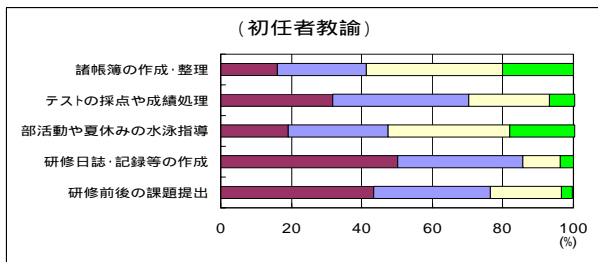


小学校の初任者教諭では、様々な校務分掌や校務処理の内、「テストの採点や通知票等の成績処理」及び「指導要録等の諸帳簿の作成・整理」に困難や課題を感じている者が、いずれも70%を超えていた。

指導教員では、これらの項目はいずれも60%程度であった。指導教員は初任者教諭に対し、成績処理や児童指導要録等の諸帳簿作成・整理などについて、適切な時期をとらえ、計画的に指導・助言することが大切である。

また、初任者教諭の中には、「研修日誌・記録等の作成」や「研修前や研修後の課題提出」に困難を感じている者もあるが、指導教員は、初任者教諭に対し、研修前後に提出する課題や研修の記録等の意義を理解させるとともに、作業の仕方等について具体的に指導・助言することが大切である。

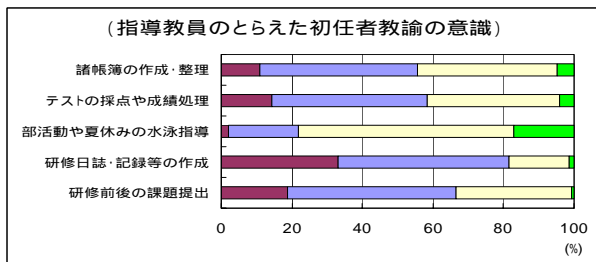
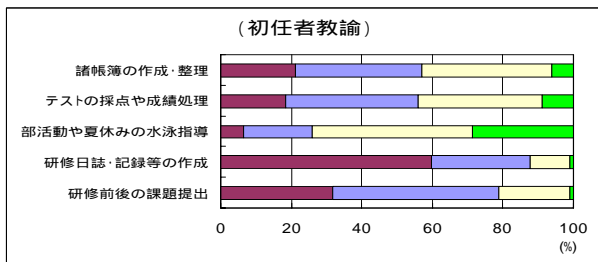
《中学校・高等学校》



中学校・高等学校の初任者教諭では、様々な校務分掌や校務処理の内、困難や課題を感じているものとして挙げているのは「研修日誌・記録等の作成」が最も多く、次いで「研修前や研修後の課題提出」を挙げる者が多かった。次に、「テストの採点や通知票等の成績処理」「部活動や夏休みの水泳指導」を挙げている。

指導教員は、初任者教諭が困難を感じている課題はほぼ同じ傾向で把握している。指導教員は、初任者教諭に対し、研修前後に提出する課題や研修の記録等の意義を理解させるとともに、作業の仕方等について具体的に指導・助言することが大切である。

《盲・ろう・養護学校》



盲・ろう・養護学校の初任者教諭では、様々な校務分掌、校務処理の内、困難や課題であると感じていることとして、80%を超える者が「研修日誌や記録等の作成」「研修前や研修後の課題提出」を挙げている。

指導教員は、初任者教諭が困難を感じている課題はほぼ同じ傾向で把握している。指導教員は、初任者教諭に対し、研修前後に提出する課題や研修の記録等の意義を理解させるとともに、作業の仕方等について具体的に指導・助言することが大切である。

初任者教諭の育成のために、こんな取組みがあります

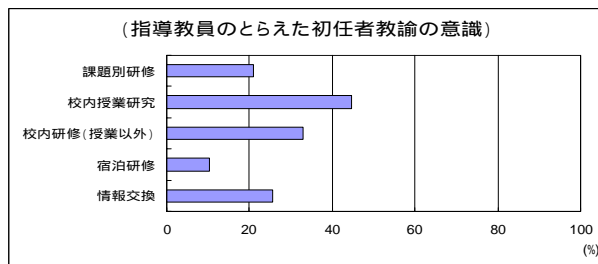
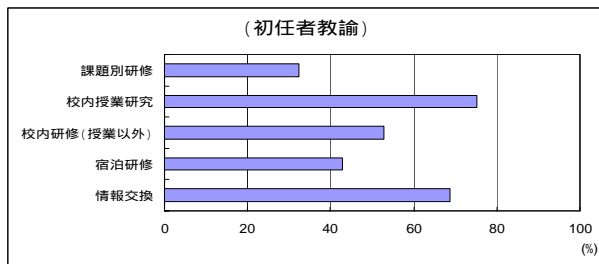
< 初任者教諭育成上の課題 >	< 各校種における取組み事例 >
<p>【小学校】 指導教員は、 年間を通じて、初任者教諭が適切に校務処理を行うことができるよう計画的に指導・助言をすることが大切です。</p>	<p>学級経営計画を初任者教諭と共に作成することを通じて、年間の校務処理について、初任者教諭が見通しをもつことができるように配慮している。 日常的な報告・連絡・相談を徹底するとともに、年間行事予定等を参考にするなどして、見通しをもって校務処理を行うことができるように助言している。 センター研修の事前・事後の課題や報告書等の作成の仕方についても校内における研修の中で具体的に指導している。</p>
<p>指導責任者（副校長）は、 初任者教諭が適切に校務処理を学ぶことができるよう、校務分掌を組織するとともに、組織を生かすことが大切です。</p>	<p>公簿、通知票等の作成については、指導教員から指導するとともに、校長・副校長・主幹等から作成上の配慮点について具体的に指導している。 校務処理について集中的にスキルを身に付けることができるように、初任者教諭の負担を考慮して校務分掌を組織している。 校務処理の研修で取り上げる内容について、初任者教諭から定期的に希望調査を行い、校内研修に反映させている。</p>
<p>【中学校・高等学校】 指導教員は、 初任者教諭と共に校務処理等を行い、組織の一員として役割を果たすことの意義を理解させることが大切です。</p>	<p>定期考査の実施計画を学年や教科部会等で検討し、作問から成績の処理等を初任者教諭と共に行っている。 初任者教諭が副担任の場合、当該学年の生徒指導要録の作成や通知票の作成にかかわらせ、校務処理を具体的に学ばせている。 センター研修の事前・事後の課題や報告書等の作成の仕方についても校内における研修の中で具体的に指導している。</p>
<p>指導責任者（副校長）は、 初任者教諭が適切に校務処理を学ぶことができるよう、校務分掌を組織するとともに、組織を生かすことが大切です。</p>	<p>教科部会を週一回設定し、各教科等の年間指導計画及び週ごとの指導計画を作成することを通じて、初任者教諭が各教科等の運営に関する校務処理を学ぶことができるようにしている。 校務処理について集中的にスキルを身に付けられるよう、初任者教諭の負担を考慮して校務分掌を組織している。</p>
<p>【特別支援学校】 指導教員は、 年間を通して初任者教諭が適切に校務処理や研修報告等を行うことができるよう計画的に指導・助言をすることが大切です。</p>	<p>過去の初任者研修の記録を文書ファイルとして保管し、必要に応じて活用できるようにしている。 公簿、通知票等の作成については、指導教員から指導するとともに、校長・副校長・主幹等から作成上の配慮点について具体的に指導している。 センター研修の事前・事後の課題や報告書等の作成の仕方についても校内における研修の中で具体的に指導している。</p>
<p>指導責任者（副校長）は、 初任者教諭が適切に校務処理を学ぶことができるよう、校務分掌を組織するとともに、組織を生かすことが大切です。</p>	<p>授業にかかわる校務を中心に校務分掌を配置している。 初任者研修の事前・事後の課題や日誌・記録等の作成の仕方についても具体的に指導している。 事務処理の方法については、行政系職員（経営企画室長）が具体的に指導している。 校務処理について集中的にスキルを身に付けられるように、初任者教諭の負担を考慮して校務分掌を組織している。</p>

育てたい資質・能力

校務分掌の仕組みや校内諸規定の意義を理解し、自校の実情を確認して対応できる。
各種文書等の作成・整理・保管を的確に行い、学級事務について適切に処理できる。
効率的な校務処理に必要な情報処理の能力と技能を身に付けている。

カ 課題の解決及び自己の向上について

《小学校》

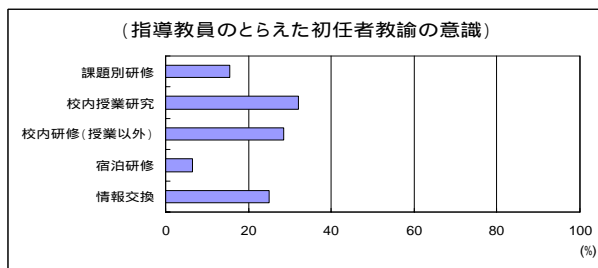
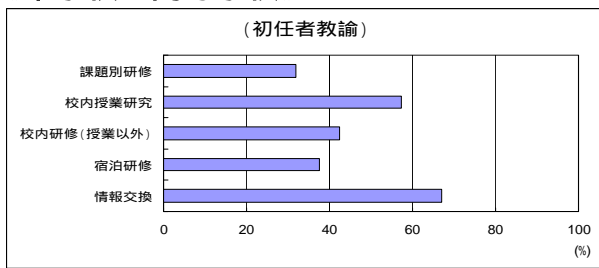


小学校の初任者教諭では、職務上の課題の解決及び自己を向上させるきっかけとなったこととして「校内授業研究」を挙げた者が最も多く、次いで「他の初任者教諭との情報交換」を挙げている。「授業以外の校内研修」についても約50%の者が自己の課題の解決や自己の向上のきっかけになったとらえている。

指導教員は、初任者教諭が課題の解決や自己の向上を図ったきっかけについて、初任者教諭とほぼ同じ傾向でとらえている。

授業研究を中心とした校内研修等を充実させることが大切である。

《中学校・高等学校》

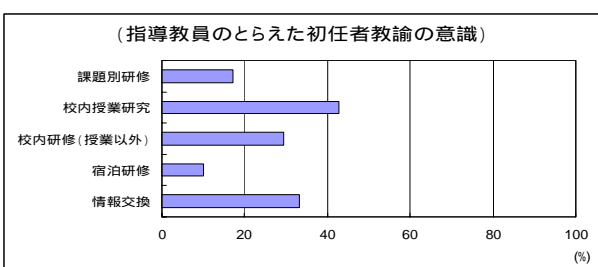
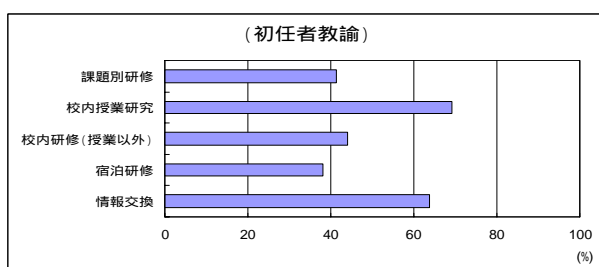


中学校・高等学校の初任者教諭では、職務上の課題の解決及び自己を向上させるきっかけとなったこととして、他の教諭等との「情報交換」を挙げた者が最も多く、次いで「校内授業研究」を挙げている者が多かった。

指導教員は、初任者教諭が課題の解決や自己の向上を図ったきっかけとして、「校内授業研究」ととらえている者が多かった。

中学校・高等学校では、校内授業研究を充実させるとともに、各初任者教諭の担当教科等が異なることから、各教科の内容にかかわる専門性を高める研修の情報や機会を適切に提供することが大切である。

《盲・ろう・養護学校》



盲・ろう・養護学校の初任者教諭では、教員となつてからの職務上の課題の解決や自己を向上させるきっかけとなったこととして「校内授業研究」を挙げた者が最も多かった。次いで、他の教諭等との「情報交換」を挙げている者が多かった。

指導教員は、初任者教諭が課題の解決及び自己の向上を図ったきっかけについて、初任者教諭とほぼ同じ傾向でとらえている。

「児童・生徒の理解」に基づいた指導や「児童・生徒理解」について、授業研究を中心とした校内研修等を充実させることが大切である。

初任者教諭の育成のために、こんな取組みがあります

＜初任者教諭育成上の課題＞	＜各校種における取組み事例＞
<p>【小学校】 指導教員は、 初任者教諭の課題解決に向け、授業研究を中心とした校内研修等において、具体的な指導・助言をすることが大切です。</p>	<p>授業研究の際には、「授業力診断シート」を活用して自己評価を行い、課題の明確化を図っている。 週ごとの指導計画作成の際に、改善点を具体的に示して目標を設定させ、授業観察で評価し、再度授業観察を行っている。 「初任者教諭の育成に関する研究」のアンケート等を活用して、初任者教諭育成上の課題を定期的に把握するようにしている。</p>
<p>指導責任者（副校長）は、 初任者教諭も含めた教員としての資質や力量を高める校内研修を組織的・計画的に行っていくことが大切です。</p>	<p>授業研究終了後、初任者教諭を対象に、校長・副校長・主幹から内容を補ったり複数の初任者教諭で協議をさせたりし、校内研修の内容をより深く理解できるように助言している。 児童や保護者からの授業評価を行い、初任者教諭の授業の指導技術に関する課題を明らかにしている。 3年次・4年次以下の教員によるグループ研修を積極的に行い、若手教員が互いに認め合い、切磋琢磨する機会を設定する。</p>
<p>【中学校・高等学校】 指導教員は、 初任者教諭の授業力を高めるための研修の重要性を理解させるとともに、授業実践についての具体的な指導・助言をすることが大切です。</p>	<p>初任者教諭に対し、授業直後に良かった点は評価し、改善すべき点は指導・助言して、再度授業に取り組みさせている。 センター研修等で情報交換のあった他の初任者教諭の課題についても報告してもらい、共に解決策を考えるようにしている。 「初任者教諭の育成に関する研究」のアンケート等を活用して、初任者教諭育成上の課題を定期的に把握するようにしている。</p>
<p>指導責任者（副校長）は、 初任者教諭に高い専門性や授業力を身に付けさせるためには、校内研修の体制を整えるとともに、研修に関する適切な情報の提供が大切です。</p>	<p>校内研修計画の重点課題に初任者教諭の育成を位置付け、年間複数の授業研究を実施するようにしている。 初任者教諭の教科に関する専門性を高めるために、教育研究会等の研修に関する情報を適時提供し、参加を促している。 3年次・4年次以下の教員によるグループ研修を積極的に行い、若手教員が互いに認め合い、切磋琢磨する機会を設定する。 近隣の学校と連携して公開校内研修を実施し、配置人数の少ない教科について相互に研修の機会が得られるようにしている。</p>
<p>【特別支援学校】 指導教員は、 初任者教諭に校種の特性を踏まえた専門性を身に付けさせるとともに、児童・生徒理解に基づいた指導に向けた指導・助言を行うことが大切です。</p>	<p>指導教員の授業を参観させたり、初任者教諭と指導教員がチームティーチングを行ったりして、児童・生徒理解に基づいた指導について、実践を通じて学ぶことができるようにしている。 初任者研修の手引きやテキストを活用し、障害についての基礎的な理解を図ることの大切さを繰り返し指導している。 「初任者教諭の育成に関する研究」のアンケート等を活用して、初任者教諭育成上の課題を定期的に把握するようにしている。</p>
<p>指導責任者（副校長）は、 特別支援教育に関する理解を図る研修の機会を設定し、全教員の専門性を高める取組みを進めることが大切です。</p>	<p>教員としての基礎的な研修と障害に関する理解を深める研修とで校内研修計画を構成し、特別支援教育にかかわる専門職として必要な専門性を高める研修を計画的に実施している。 特別支援教育に関する基本的な考え方を理解するための校内研修を全学部共通で実施するようにしている。 3年次・4年次以下の教員によるグループ研修を積極的に行い、若手教員が互いに認め合い、切磋琢磨する機会を設定する。</p>

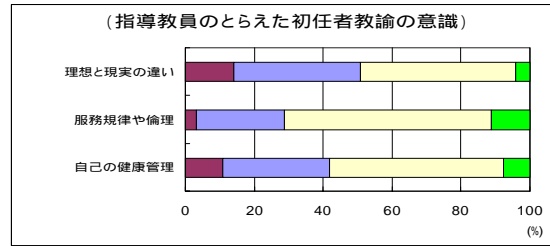
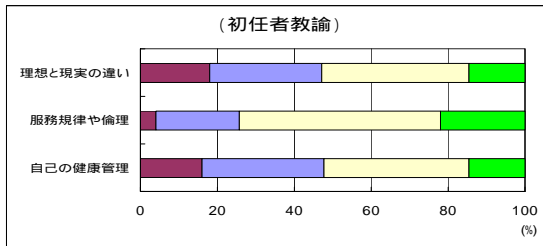
育てたい資質・能力

主体的に研修・研究に取組み、日常の教育活動の改善・充実に生かすことができる。
自らの識見や指導力を高めるために、体験研修等へ積極的に参加することができる。

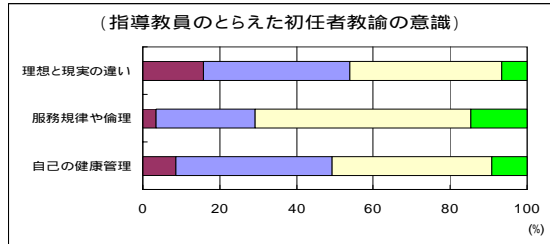
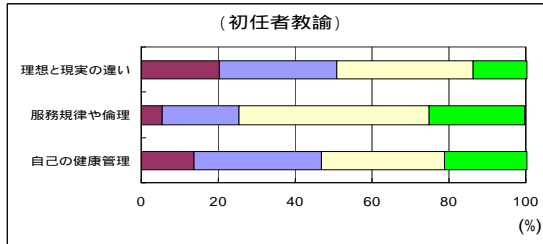
キ 教師としての在り方等について

■ とても感じている ■ 少し感じている ■ あまり感じていない ■ まったく感じていない

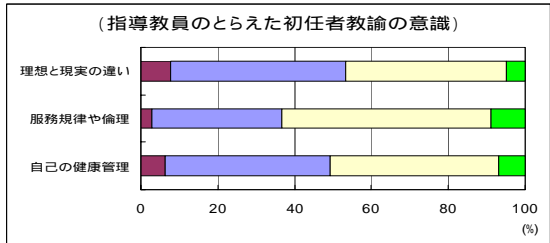
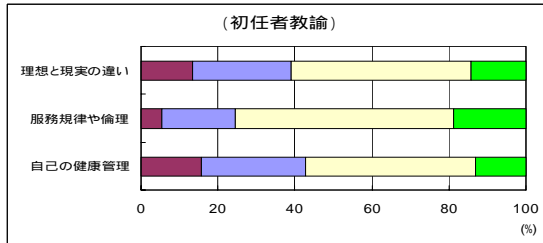
《小学校》



《中学校・高等学校》



《盲・ろう・養護学校》



全校種にわたって、初任者教諭が感じている教師としての在り方等についての課題は、「理想と現実の違い」や「自己の健康管理」を挙げる者が多かった。

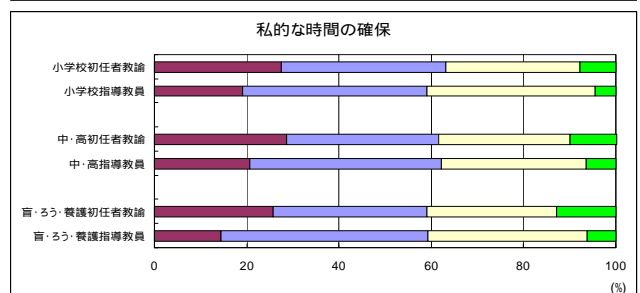
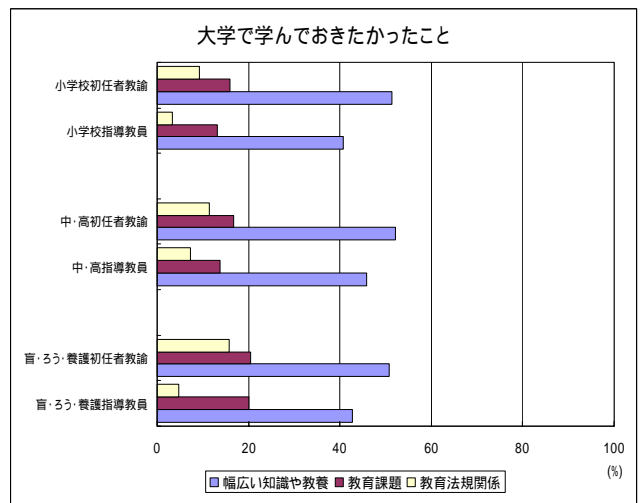
指導教員も、初任者教諭に対する教師としての在り方等についての課題は、初任者教諭とほぼ同じ傾向でとらえているが、いずれの項目についても「とても感じている」とする者の割合は、初任者教諭の方が高かった。

「服務規律や倫理」に関しては、課題と感じている初任者教諭は他の項目に比べると少ないが、服務規律を身に付け、教育公務員としての適切な行動規範を身に付けることは重要である。

学校全体の服務規律に関する意識を高めていくとともに、指導教員は、初任者教諭に対して、適切に指導・助言していくことが求められる。

また、「大学で学んでおきたかったこと」については、全校種に共通して「幅広い知識や教養」を挙げる初任者教諭が多かった。初任者教諭には、研修の重要性について理解させるとともに、初任者教諭の希望や意志、悩み等に応じた適切な研修の機会について情報を提供していくことが大切である。

また、全校種に共通して、初任者教諭の約60%が「私的な時間の確保」が難しいと感じているとしているが、初任者教諭のライフスタイルについての相談や支援に対応することも大切である。



初任者教諭の育成のために、こんな取組みがあります

＜初任者教諭育成上の課題＞	＜各校種における取組み事例＞
<p>【小学校】 指導教員は、 様々な教育課題や初任者教諭自身の課題を踏まえて、具体的に助言するとともに、初任者教諭の理解者としてかわることが大切です。</p>	<p>初任者教諭の研修の実績を残すことができるように、ポートフォリオとして記録を保存するよう助言している。 社会人として適切な接遇の仕方や礼儀・作法等を具体的な場面を通して指導している。 国際社会における日本人としてのふさわしい資質・能力を高めることや外国語を運用する技能、情報を適切に処理する技能等、幅広い知識や教養を身に付けることの大切さを指導している。</p>
<p>指導責任者（副校長）は、 学校経営方針に基づき、「育てたい教師像」を明確に示すとともに、キャリアプランの作成を通して、今後の目標と見通しをもつことができるよう、指導・助言することが大切です。</p>	<p>キャリアプラン作成にあたって、初任者教諭が具体的なイメージをもてるよう、課題を明確に示すようにしている。 年度当初にメンタルヘルスの相談窓口等の情報提供を行うとともに、日ごろから初任者教諭との面接を行っている。 地域や保護者からの信頼の大切さと公務員としての服務規律の遵守について、全教職員に対して日ごろから指導している。</p>
<p>【中学校・高等学校】 指導教員は、 様々な教育課題や初任者教諭自身の課題を踏まえて、具体的に助言するとともに、初任者教諭の理解者としてかわることが大切です。</p>	<p>指導教員自らが理想としている教師像を一例として、初任者教諭の自覚を高めている。 社会人として適切な接遇の仕方や礼儀・作法等を具体的な場面を通して指導している。 国際社会に生きる日本人としてのふさわしい資質・能力を高めることや外国語を運用する技能、情報を適切に処理する技能等、幅広い知識や教養を身に付けることの大切さを指導している。</p>
<p>指導責任者（副校長）は、 学校経営方針に基づき、「育てたい教師像」を明確に示すとともに、キャリアプランの作成を通して、今後の目標と見通しをもつことができるよう、指導・助言することが大切です。</p>	<p>キャリアプラン作成にあたって、初任者教諭が具体的なイメージをもてるよう、課題を明確に示すようにしている。 年度当初にメンタルヘルスの相談窓口等の情報提供を行うとともに、日ごろから初任者教諭との面接を行っている。 地域や保護者からの信頼の大切さと公務員としての服務規律の遵守について、全教職員に対して日ごろから指導している。</p>
<p>【特別支援学校】 指導教員は、 様々な教育課題や初任者教諭自身の課題を踏まえて、具体的に助言するとともに、初任者教諭の理解者としてかわることが大切です。</p>	<p>指導教員自らが理想としている教師像を一例として、初任者教諭の自覚を高めることができるようにしている。 初任者教諭の課題や将来の希望を生かすような研修の機会を紹介しながら、研修の充実を図るための相談に応じている。 社会人として適切な接遇の仕方や礼儀・作法等を具体的な場面を通して指導している。 国際社会に生きる日本人としてのふさわしい資質・能力を高めることや外国語を運用する技能、情報を適切に処理する技能等、幅広い知識や教養を身に付けることの大切さを指導している。</p>
<p>指導責任者（副校長）は、 学校経営方針に基づき、「育てたい教師像」を示すとともに、キャリアプランの作成を通して、今後の目標と見通しをもつことができるよう、指導・助言することが大切です。</p>	<p>キャリアプラン作成にあたって、初任者教諭が具体的なイメージをもてるよう、課題を明確に示すようにしている。 年度当初にメンタルヘルスの相談窓口等の情報提供を行うとともに、日ごろから初任者教諭との面接を行っている。 地域や保護者からの信頼の大切さと公務員としての服務規律の遵守について、全教職員に対して日ごろから指導している。</p>

育てたい資質・能力

公教育の概念や教育課題・施策等について理解を深める。

服務事項を正しく理解し、基礎的な職能と適切な行動規範を身に付ける。

社会人としての幅広い知識や教養、社会的常識を身に付け、自己の行動に適切に生かす。

資料3 初任者教諭育成力レンダラー「中学校・高等学校」

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事(例)等	・始業式 ・入学式 ・保護者会	・定期健康診断 ・生徒総会 ・中間考査	・修学旅行 ・学校公開	・期末考査 ・保護者会 ・個人面談 ・終業式	・部活動合宿	・始業式 ・学校公開 ・運動会 ・避難訓練	・道徳授業地区公開講座(中学校) ・中間考査	・学習発表会 ・生徒会役員選挙 ・移動教室	・期末考査 ・保護者会 ・個人面談 ・終業式	・始業式 ・入学式選抜(高等学校) ・期末考査 ・セイブア教室	・学校公開 ・入学式選抜(高等学校) ・期末考査	・期末考査 ・保護者会 ・卒業式 ・修了式
ア 授業について 4・5ページ参照	<p>授業実践の技術と評価方法</p> <p>指導案、週ごとの指導計画の作成 教材指導の基礎技術 考査問題の作成と評価 生徒による授業評価と授業の改善 教育課程への理解</p>											
イ 学級経営について 6・7ページ参照	<p>生徒とのかわり</p> <p>学級経営の基本的な考え方 学級集団の指導の実際 生徒の実態把握と生徒理解の実際 生徒の褒め方・叱り方</p>											
ウ 他の教員との連携について 8・9ページ参照	<p>良好な人間関係の形成</p> <p>校内組織の在り方と教員の役割 校内生活指導体制と役割分担 生徒会活動、部活動の指導の実際</p>											
エ 保護者・地域との連携について 10・11ページ参照	<p>連携についての基本的な理解</p> <p>学級通信・連絡文書の作成の仕方 保護者会の進め方 生徒・保護者面談の進め方</p>											
オ 効果的な校務処理等について 12・13ページ参照	<p>学級事務の進め方</p> <p>生徒指導要録・出席簿・通知票等の作成 単位履修・習得、進級、卒業要件の理解(高等学校)</p>											
カ 課題の解決及び自己向上について 14・15ページ参照	<p>研修会等への積極的な参加</p> <p>校内研修への参加の仕方 部活動の指導の実際</p>											
キ 教師としての在り方等について 16・17ページ参照	<p>教育公務員としての服務事項と行動規範の習得</p> <p>教育公務員としての心構え 勤務・服務の実際 管理運営規則の理解(高等学校) 学校の教育目標と指導方針 自己申告書・キャリアプランの作成 メンタルヘルスの維持</p>											
担当	校長、副校長、主幹、指導教員、教務主任等											
「初任者教諭育成に関する研究」のアンケートを活用した課題の把握												
二学期の評価・三学期への課題												
一年間の評価と反省・次年度への抱負												

資料3 初任者教諭育成カレンダー「特別支援学校」

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事(例)等	・始業式 ・入学式 ・保護者会 ・家庭訪問	・家庭訪問 ・遠足 ・定期健康診断	・運動会 ・学校公開 ・七夕フェスティバル 教室	・保護者会 ・終業式	・集団宿泊行事 ・夏季競技会	・始業式 ・引渡し訓練	・校外学習 ・学習発表会	・学校公開	・授業参観 ・保護者会 ・個人面談 ・終業式	・始業式	・入学説明会 ・授業参観	・保護者会 ・修了式 ・卒業式
授業について	<p>授業実践の技術と評価方法</p> <p>指導案・週ごとの指導計画の作成 自立活動の個別指導計画 教材・教具の工夫(教科指導) 教科指導の評価</p>											
担当	<p>副校長 主幹 指導教員 教科指導員 教科主任等</p>											
学級経営について	<p>児童・生徒とのかわり</p> <p>学級運営と学級経営 安全指導の実践(事例研究) 児童・生徒の褒め方・叱り方 学級経営の基本的な考え方</p>											
担当	<p>副校長 主幹 指導教員 学年主任等</p>											
他の教員との連携について	<p>校内組織の在り方と教員の役割 複数担任による指導の実践 児童会・生徒会活動の指導の実践 校内生活指導組織と役割分担</p>											
担当	<p>副校長 主幹 指導教員 学年主任等</p>											
保護者・地域との連携について	<p>連携についての基本的な考え方</p> <p>保護者会の進め方 学級・学年通信の活用</p>											
担当	<p>校長 副校長 主幹 指導教員 学年主任等</p>											
効果的な校務処理等について	<p>学級事務の進め方 児童・生徒指導要録・出席簿・通知表等の作成</p>											
担当	<p>副校長 主幹 指導教員 学年主任等</p>											
課題の解決及び自己向上について	<p>研修等への積極的な参加</p> <p>特別支援教育についての基礎的な理解 障害についての理解 校内研修への参加の仕方</p>											
担当	<p>副校長 主幹 指導教員 養護教諭等</p>											
教師としての在り方等について	<p>教育公務員としての服務事項と行動規範の習得</p> <p>学校の教育目標と指導方針 教育公務員としての心構え 勤務・服務の実践 自己申告書・キャリアプランの作成 メンタルヘルスの維持</p>											
担当	<p>校長 副校長 主幹 指導教員等</p>											
<p>一年間の評価と反省・次年度への抱負</p>												
<p>二学期の評価・三学期への課題</p>												
<p>初任者教諭育成に関する研究」のアンケートを活用した課題の把握</p>												
<p>一年間の評価と反省・次年度への抱負</p>												
<p>二学期の評価・三学期への課題</p>												
<p>初任者教諭育成に関する研究」のアンケートを活用した課題の把握</p>												
<p>一年間の評価と反省・次年度への抱負</p>												

「初任者教諭の育成に関する研究」 アンケート 質問項目

1 教員となってから、職務上の課題の解決や自己を向上させるきっかけとなったのは、次のどれですか。該当する項目を選んでください。当てはまる項目はすべて選んでください。(複数回答可)

(1) 主に初任者研修等の研修から

- 指導教員の助言や評価
- センター研修の講師や指導主事等からの助言や評価
- 課題別研修での体験活動
- 校内における授業研究
- 校内における授業以外の研修
- 宿泊研修
- 事前課題や研修日誌・記録などの作成
- 他の初任者との情報交換
- その他(具体的に記述してください。)

(2) 主に日々の教育活動から

- 管理職の助言や評価
- 同僚教員の助言や評価
- 保護者の理解を得られたとき
- 児童・生徒と共に活動したこと
- 校務分掌等の職務
- 児童・生徒への指導の成果が表れたこと
- 効果的な指導法を考えついたこと
- その他(具体的に記述してください)

2 職務遂行上、大きな困難や負担を感じた項目はありますか。それぞれについて感じた程度を選んでください。(4:とても感じた、3:少し感じた、2:あまり感じなかった、1:まったく感じなかった)

(1) 学級経営について

- 年度当初の学級づくり(学級目標の設定、委員や座席の決定など)
- 学級集団の掌握や指導の仕方(集団に対する指示の徹底など)
- 個々の児童・生徒の理解や指導(一人一人の児童・生徒への対応など)
- 保護者会、個人面談、家庭訪問等の計画や実施など(必要な連絡をすることなども含む)
- 保護者への連絡や苦情への対応(生活指導関係の連絡や苦情への対応など)
- 休み時間や放課後、昼食時等の指導
- 学校行事での指導(行事の準備、児童・生徒を意欲的に取り組ませることなど)
- 指導要録等の諸帳簿の作成・整理(指導要録、学級経営案、会計簿等)

(2) 授業について

- 指導計画や学習指導案の作成(年間指導計画、週ごとの指導計画など)
- 教材・教具やワークシート等の準備
- 基本的な指導技術(発問や指示、板書の仕方など)
- 個々の児童・生徒の学習状況の把握と対応(授業中の児童・生徒の反応やそれに対する指導)
- 授業規律の保持や徹底(授業中のルールや学習の決まりを守らせること)
- 授業の進度(年間計画に従って適切に授業を進めること)
- 課題等の事後指導(ワークシートやノートなどの指導)
- テストの採点や通知表等の成績処理
- 特定の教科・科目や単元・領域の指導
(例:国語の作文、算数の「数と計算」領域、体育の実技に困難を感じるなど)
- 宿題の出し方(宿題の量や質、確認の仕方、早く返却することなど)

- (3) 学校組織や他の教員等との連携について
 - 管理職（校長や副校長）との関係
 - 初任者研修の指導教員との関係
 - 同僚教員等との仕事上の連携やかかわり
 - 同僚教員等との勤務時間外のつきあい
 - 校務分掌上の役割や職務
 - 会議や打ち合わせ
 - 部活動の指導や夏休みのプール指導等の対応
 - 休日や祝日等における仕事（PTA行事や地域行事等への参加）

- (4) 初任者研修
 - 指導教員からの指示や指導
 - 教育センター等での研修
 - 課題別研修（ボランティア研修や自然体験活動等）
 - 校内における授業研究
 - 校内における授業研究以外の研修
 - 宿泊研修
 - 研修日誌・記録等の作成
 - 研修前の課題や研修後の課題提出

- (5) その他
 - 教職に対する理想と現実との違い（想像していた学校や教師の姿と実際に勤務してからの違い）
 - 教育公務員としての服務規律や倫理
 - 自分の得意分野を生かせない配置（校種、担当学年、分掌等で希望と異なる配置であったこと）
 - 私的な時間の確保（勤務や授業の準備等で自分の時間をもてないことに対するストレスを感じる）
 - 自己の健康管理（具合が悪いと感じても相談したり休んだりできないこと）
 - 家族の理解（遅い時間や休日に出勤して仕事をすることについて家族から理解が得られないこと）

3 仕事を進める上で悩みをもったときの主な相談相手はだれですか。

管理職	指導教員	その他の教員	他の初任者
教育委員会等の担当者	特にいない	その他（具体的に記述してください）	

4 教員になる前に、「大学でもっと学んでおいた方がよかった」と思うことはありますか。初任者教諭としての経験をもとに、該当する項目はすべて選んでください。（複数回答可）

- 学習指導要領や各教科の指導内容に関すること
- 各教科の専門的な知識に関すること
- 各教科の指導方法や指導技術に関すること
- 学習指導案の作成や教材研究に関すること
- 学級経営や児童理解に関すること
- 学校の組織や校務に関すること
- 地域との連携や保護者との対応力
- 教育法規に関すること
- 人権教育や安全教育、特別支援教育などの教育課題に関すること
- 教員としての幅広い知識や教養
- 心理学に関すること
- 学校での実習、授業参観等学校現場の実際について学ぶこと
- その他（具体的に記述してください。）

5 全体として大きな困難や負担を感じた時期はいつごろでしたか。（複数回答可）

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

6 その他御意見があれば御記入ください。（自由記述）

参考資料

< 関係資料 >

1 調査用紙・回答用紙

- ・「初任者教諭の育成に関する研究」アンケート及び回答用紙（初任者教諭用）
- ・「初任者教諭の育成に関する研究」アンケート及び回答用紙（指導教員用）

2 調査結果

- ・「初任者教諭の育成に関する研究」における調査結果
(初任者教諭・指導教員・東京教師道場部員)

詳細については、東京都教職員研修センターホームページを御覧ください。

(URL : <http://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.jp/>)

< 参考文献等 >

「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について（第1次答申）」

(平成9年7月 教育職員養成審議会)

「養成と採用・研修との連携の円滑化について（第3次答申）」

(平成11年12月 教育職員養成審議会)

「今後の教員免許制度の在り方について（答申）」

(平成14年2月 中央教育審議会)

「新しい時代の義務教育を創造する（答申）」

(平成17年10月 中央教育審議会)

「今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）」

(平成18年7月 中央教育審議会)

東京都公立学校初任者研修実施要綱

(平成15年2月 東京都教育委員会)

東京都公立学校初任者研修実施細目

(平成15年2月 東京都教育委員会)

「これからの教員選考・任用制度について」

(平成18年4月 教員任用制度あり方検討委員会)

「これからの教員の任用制度について」～新たな職の視点から～

(平成18年7月 教員の職のあり方検討委員会)

< 実践事例調査協力校 >

足立区立梅島小学校・日野市立平山小学校・練馬区立中村中学校・練馬区立谷原中学校
都立大泉高等学校・都立足立東高等学校・都立八王子養護学校・都立葛飾ろう学校

< 主な担当者 >

東京都教職員研修センター

企画部企画課長

守屋一幸

平成18年度東京都教員研究生

同 指導主事

佐藤勇人

千代田区立千代田小学校 教諭 藤本禎子

研修部教育開発課長

倉田朋保

新宿区立戸塚第三小学校 教諭 立野文雄

教育開発課統括指導主事

並木浩子

江東区立第三大島小学校 教諭 小坂美智子

同 指導主事

清水 薫

世田谷区立明正小学校 教諭 平山和良

同 指導主事

高藤 浩

板橋区立成増小学校 教諭 加藤裕美子

同 指導主事

板澤健一

国市立国立第二小学校 教諭 稲富泰輝

同 教授

田中久美子

平成18年度後期教育課題研究 初任者教諭育成に関する指導資料

印刷物登録平成18年度第35号

平成19年3月発行

編集・発行 東京都教職員研修センター

所在地 〒113-0033 東京都文京区本郷1-3-3

電話 03-5802-0305